

第1回あきる野市農業振興計画策定検討委員会 会議要録

【開催日時・場所】

日時：令和7年5月19日（月）午前10時00分から午前11時30分まで

場所：あきる野市役所 別館3階、第四会議室

【構成委員と出席者】

	氏名	所属	出欠
委員	相原 宏次	東京都農業会議 事務局長	出
	甲野 富和	あきる野市農業委員会 会長	出
	高木 守	秋川農業協同組合 地域振興部長	出
	横田 弘文	秋川ファーマーズセンター出荷部会 会長	欠
	大福 哲也	五日市ファーマーズセンター出荷部会 会長	出
	高橋 由夫	十里木・長岳農畜産物等直売組合 会計	出
	嶋崎 三雄	あきる野市農業振興会 会長	出
	石川 光代	あきる野市農業振興会 監事	欠
	半田 睦子	消費者の代表	出
	飯田 淳二	東京都農業会議	出
	両角 正博	東京都西多摩農業改良普及センター 所長	出
	北岡 大知	東京都農業振興事務所	出
	石塚 光輝	あきる野市環境農林部 部長	出
事務局	松村 直人	あきる野市環境農林部農林課 課長	出
	岩田 英明	あきる野市環境農林部農林課農政係 係長	出
	金澤 知行	あきる野市環境農林部農林課農政係 主事	出
	森 みな美	あきる野市環境農林部農林課農政係 主事	出

【配布資料】

- 資料1 「会議次第」
- 資料2 「委員名簿」
- 資料3 「あきる野市農業振興計画策定検討委員会設置要綱」
- 資料4 「あきる野市農業振興計画（令和4年度改訂）」
- 資料5 「あきる野農業の現状」
- 資料6 「アンケート調査（直売所利用者）（案）」
- 資料7 「アンケート調査（農家）（案）」
- 資料8 「策定検討委員会スケジュール（案）」

【会議内容（議事要旨）】

1. 開会 （事務局）
2. 委嘱書交付 石塚環境農林部長から各委員に委嘱書の交付が行われた。
3. 環境農林部長挨拶 あきる野市環境農林部長 石塚光輝より挨拶。
4. 委員及び事務局自己紹介 名簿に沿って出席者の自己紹介を行った。
5. 委員長副委員長の選任
委員長に「相原委員」、副委員長に「甲野委員」が選任された。
6. 議事
 - (1) 現あきる野市農業振興計画について
事務局より「あきる野市農業振興計画」について説明（資料4）。
 - (2) あきる野農業の現状について
事務局より「あきる野農業の現状」について説明（資料5）。
 - (3) アンケート調査について
事務局より「アンケート調査」の実施について説明（資料6・7）。
 - (4) その他
 - ・今後の策定スケジュールについて
事務局より「策定検討委員会スケジュール」について説明（資料8）。

【会議内容（意見）】

会議においての主な「意見」は以下のとおり。

- （委員）農家は全国的に減少傾向にあるなかで、あきる野市の認定農業者は増えてきているとの説明がありましたが、東京都のなかでは認定農業者の推移はどのような状況でしょうか。

(委員) 都内の認定農業者の増減は、ここ10年くらいでは増加傾向にありましたが、近年は横ばい傾向にあります。

ただし、認定新規農業者に関しては現在も増加傾向にあります。

○(委員) 東京都の傾向として認定農業者が横ばい傾向ということですが、人がいないのか魅力が無いのか、その理由はわかりますか。

(委員) 原因としては、高齢化により更新されない方が多くなっていることから、新規でやりたい方を上回っている状況です。

○(委員) 更新されない方の後継者は居ないのですか。

(委員) 息子さんとか後継者がいる場合もありますが、経営状況が良好であれば後継者に引き継げるが、そうでない場合は、後継者がいても引き継げない状況もあります。

○(委員) 認定新規就農者が増加傾向にあるということですがどの世代になりますか。

(事務局) 新規就農者の要件は、65歳以下になっています。

あきる野市の状況ですと50代前半ぐらいで、一番若い方ですと20代半ぐらいとなります。

○(委員) その方は、会社とかをリタイアされて就農してきた方ですか。

(事務局) 30代以降くらいの方だと会社を退職してからの方が殆どです。

20代の方は、学校を卒業して、地元農家で研修して就農する方もいます。

○(委員) 秋川ファーマーズセンターの再整備について、これまでもこの話は出ていたと思いますが、次期計画にはセンターの再整備を位置づけていく必要があると思いますがいかがですか。

(事務局) 現計画でもセンターの再整備は位置づけられています。

現在もJAを中心に検討が進められていますが、建設資材の価格高騰などの影響もあり、当初思い描いていたようなスケジュールでは進んでいない状況となっています。

○(委員) 意見になりますが、この計画の計画期間は10年となっていて、必要に応じて改訂することだが、農家の高齢化が問題になっている今、5年先は大きく状況が変化することは明確だから、もっとスパンを短くしていかなければならないと感じます。また、センターの更新は喫緊の課題だと感じています。

○(委員) 五日市ファーマーズセンターも開設から25年となっていますが、瀬音の直売所も含め、複数の農業生産物を販売する拠点があることも重要だと思っています。また、今後の地域計画の予定地域について教えてください。

(事務局) 次に地域計画を予定してるのは、増戸の上ノ台と雨間の東郷前と南郷を予定しています。

○(委員) 新しい学校給食センターの建設が進められているとのことですが、地域や農業者の方の具体的な動きはありますか。

(事務局) 新学校給食センター整備が決まってから、JAと市で定期的に地場産野菜を積極的に導入するための会議は継続しています。

地場産野菜を受け入れるための新たな設備も導入が検討されています。

- （委員）中山間地域での農家の立場で、意見を述べさせていただきます。

高齢化は深刻で、あと10年もすれば農家も半分になるのではないかと思っています。平地の畑と異なり、斜面地ですから、手間暇も多くかかります。そんな中でも農業を守ることが地域も守ることになると考えています。

今、一番の課題は獣害対策です。畑を電気柵で囲わなければなりません。

また、農道の整備が進んでおらず、畑に機械を入れることも困難な状況にあります。農家のモチベーションを保つためにも、ささやかで良いので農道の整備が必要と考えます。

最後に、果樹の加工ですが、近くに加工場がなく費用も高騰しています。

販売額に転嫁することも困難なため、近くに加工場が欲しいなどの思いがあります。是非、中山間地域の現状にも目を向けていただきたいと思います。

7. 閉会 甲野副委員長